

# 第2回食・触コンソーシアムシンポジウム

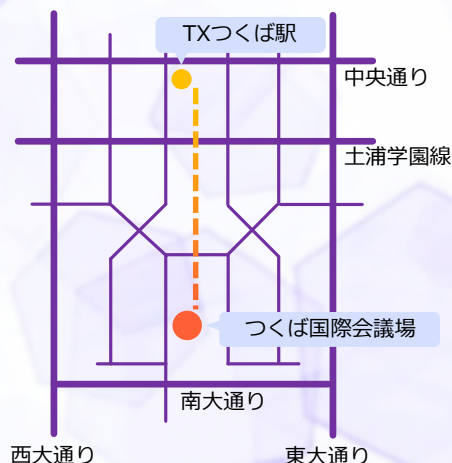
～未活用生物資源からの高付加価値化技術を利用した製品開発に向けて～

日時 ◇ 2019年1月23日(水) 14:00～17:20

会場 ◇ つくば国際会議場 3階小会議室303  
(〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3)  
TXつくば駅A3出口より遊歩道を徒歩13分

参加費 ◇ 無料 ※事前登録制

交流会 ◇ 同日17:30～ レストランエスポワール  
参加費 ◇ 4,000円 ※事前登録制  
(参加費は当日受付にてお支払いください)



## プログラム

- 13:30-14:00 受付
- 14:00-14:05 開会挨拶 食・触コンソーシアムコンソーシアム会長 佐藤 一彦
- 14:05-14:15 ご挨拶 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課  
エネルギー・環境イノベーション戦略室 根本 耕司
- 14:15-15:05 講演① 三菱ケミカル株式会社  
高機能ポリマー企画部 技術室 佐野 浩
- 15:05-15:35 休憩
- 15:35-16:25 講演② 国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター  
生物資源・利用領域 プロジェクトリーダー 小杉 昭彦
- 16:25-17:15 講演③ 九州大学  
炭素資源国際教育研究センター長 林 潤一郎
- 17:15-17:20 閉会挨拶 食・触コンソーシアム副会長 磯田 博子
- 17:30-19:30 交流会

最新情報は食・触コンソーシアム ホームページをご覧ください。

## お申し込み方法

食・触コンソーシアム ホームページより  
お申し込みください。

<http://shoku-shoku.cons.aist.go.jp/>



## お問い合わせ先

〒305-8565  
茨城県つくば市東1-1-1 つくば中央第5  
国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
触媒化学融合研究センター  
食・触コンソーシアム事務局

E-mail: [shoku-shoku.sec-ml@aist.go.jp](mailto:shoku-shoku.sec-ml@aist.go.jp)

TEL: 029-861-8692 FAX: 029-861-4498

URL: <http://www.cons.shokushoku/>



Food, Medicine and Material Innovation Based on Bio-resource and Catalyst Technology  
生物資源と触媒技術に基づく食・薬・材創生コンソーシアム

## 講演①「バイオを活用した高付加価値素材の開発と事業化 －KAITEKIの実現を目指して－」

三菱ケミカル株式会社  
高機能ポリマー企画部 技術室 佐野 浩

三菱ケミカルグループは「時を越え、世代を超え、人と社会、そして地球の心地よさが続く状態」を表す“KAITEKI”のコンセプトの下、素材、機能商品、ヘルスケア分野で事業活動を展開している。10年、20年後の社会を見据えたKAITEKIの具現化のために、炭素を高度利用する社会の実現が特に重要な責務と考えている。具体的には、二酸化炭素など環境負荷物質の資源化・排出抑制や天然資源の枯渇問題の緩和に貢献する技術イノベーションと製品の社会実装に取り組んでいる。本シンポジウムでは、長年培ってきた化学技術の高度化と生物に関連する知見を組み合わせ、商品化を果たしたバイオプラスチックの事例を中心に紹介する。

## 講演②「持続可能性から見たバイオマス資源とエネルギー変換技術開発」

国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター  
生物資源・利用領域 プロジェクトリーダー 小杉 昭彦

2015年12月のパリ協定の合意から、世界が大きく変わろうとしている。これまでも、脱炭素社会や炭素循環をかけ声にグリーンエネルギーへの流れはあったが、今後、そのエネルギーに“持続可能性（サステナビリティ）”があるか？ないか？が、経済性以上に重要な流通判断の基準になってくる。世界の食糧や環境問題に多大な影響を与えるであろう、アジア地域、特に我々が活動を行っている東南アジア地域のエネルギー事情を例に、持続可能性を考慮したバイオマス資源からの再生可能エネルギー利用状況、また技術開発、そしてポテンシャルについてお話ししたい。

## 講演③「Biomass-to-Chemicalsの意義と技術的・経済的課題」

九州大学  
炭素資源国際教育研究センター長 林 潤一郎

バイオエコノミーの実現に向けた近年の欧米諸国や化学産業の動きは、将来の化学品製造は、好むと好まざるとに関わらずバイオマスに依存せざるを得なくなる可能性を示唆する。本講演では、農林系バイオマス（非可食性）を国産資源として利用する地域分散型の化学品製造・利用・再生システムをわが国に実装するためのボトルネック、課題をサプライチェーン、バリューチェーンおよび変換技術の俯瞰から抽出し、将来にあるべきシステム・技術のあり方、意義、開発課題等を提案する。これに併せてバイオマスのエネルギー利用に関しても言及したい。

## 食・触コンソーシアムとは…

生物資源と触媒技術に基づく食・薬・材創生コンソーシアム（食・触コンソーシアム）は産総研、筑波大学、東京大学が中心になり、企業・大学・公的研究機関の技術交流の場を提供することにより、様々な生物資源の高機能化・高付加価値化についての技術・情報の収集・提供・交換・共通認識形成を図り、生物資源の実用化・産業化を推進させることを目的としています。